

## 1 芦屋市の市民参画・協働の指標の評価

『第2次芦屋市市民参画協働推進計画』では、基本理念として掲げる「市民参画・協働による住みよいまちづくり」の実現に向け、基本目標に「そだつ」「つながる」「すすむ」「ささえる」というキーワードのもと、「市民参画・協働の意欲を高める」「連携機会の充実」「市民活動を高める環境整備」「市民参画・協働推進の仕組みの整備」の取組を実施してきました。

基本目標ごとに、設定されている成果目標（指標）をもとに、市民参画・協働施策に対する市民の意識や行動の変化について市民及び職員アンケートの結果から評価を行いました。

## (1) 基本目標ごとの成果目標の評価

## ○ 基本目標1 &lt;そだつ&gt;について

基本目標	指 標	対象	当初値 (平成 26 年)	現状値 (令和元年)	目標値 (令和元年度末)
そだつ	「市民活動や地域活動に取り組む人材が市民の間に育っている」と考える割合	市民	17.6%	16.1%	25%
		市職員	28.1%	43.1%	35%

「市民活動や地域活動に取り組む人材が市民の間に育っている」と考える割合は、市民では、横ばいとなっており、目標値に対して低い数値となっています。一方で、平成 26 年（2014 年）調査では「わからない」の割合が 53.3%であったのに対し、今回調査では「どちらでもない」と答えた割合は 31.7%と少なくなっています。

また、市職員では、目標値を達成しており、「おおむねできている」（平成 26 年調査：3.3%，今回調査：11.4%）「できているが不十分」（平成 26 年（2014 年）調査：14.3%，今回調査：31.7%）がともに増加しています。特に「できているが不十分」の割合が増加しており、市職員では、市民活動や地域活動に取り組む人材が少しずつ育ってきていると感じていることがうかがえます。

## ○ 基本目標2 <つながる>について

基本目標	指 標	対象	当初値 (平成 26 年)	現状値 (令和元年)	目標値 (令和元年度末)
つながる	「市民と市が協力し合っ て市内や地域の課題解決 に取り組む機会が充分に ある」と考える割合	市民	16.6%	※① 29.0% ※② 16.4%	25%
		市職員	32.1%	48.0%	40%

※①行政からの情報提供の充足度

※②市民の声を届ける機会の充足度

(「市民と市が協力し合っ  
て市内や地域の課題解決に取り組む機会が充分にある」と考える割合は、その要素を2つ  
に分けて質問を実施)

「市民と市が協力し合っ  
て市内や地域の課題解決に取り組む機会が充分にある」と  
考える割合は、市民では、行政からの情報提供の充足度については改善（平成 26 年  
(2014 年) 調査：15.1%，今回調査：29.0%）していますが、市民の声を届ける  
機会については、平成 26 年（2014 年）調査では「おおむね、できている」「でき  
ているが不十分」の合計の割合が 17.1%であったのに対し、今回調査では「そう思  
う」「少しはそう思う」の合計の割合が 16.4%と横ばいとなっており、行政について  
の情報提供はある程度できていますが、市民の声を届ける機会については引き続き取  
組について検討することが必要です。

また、市職員では、目標値を達成しており、「おおむねできている」（平成 26 年調  
査：8.0%，今回調査：14.2%）「できているが不十分」（平成 26 年（2014 年）調  
査：24.1%，今回調査：33.8%）がともに増加しています。特に「できているが不  
十分」の割合が増加しており、市職員では、市民と市が協力し合っ  
て市内や地域の課  
題解決に取り組む機会が広がってきていると感じていることがうかがえます。

## ○ 基本目標3 <すすむ>について

基本目標	指 標	対象	当初値 (平成 26 年)	現状値 (令和元年)	目標値 (令和元年度末)
すすむ	パブリックコメント制度 を知っている割合	市民	18.3%	20.0%	25%

パブリックコメント制度を知っている割合は、当初値よりも上回ってはいますが、  
目標値に対して低い数値となっています。パブリックコメント制度の認知度に改善は  
みられますが、引き続きの理解・周知を進める必要があります。

### ※パブリックコメントとは・・・

市の施策の策定に当たり、その施策の趣旨、目的、内容等を公表し、広く市民の意見を提出す  
る機会を設け、提出された意見に対する市の考え及び結果を公表する手順をいいます。

#### ○ 基本目標4 <ささえる>について

基本目標	指 標	対象	当初値 (平成 26 年)	現状値 (令和元年)	目標値 (令和元年度末)
ささえる	協働した経験がある、または協働している割合	市職員	31.9%	45.7%	40%

協働した経験がある、または協働している割合は、目標値を達成しており、協働した経験がある職員の割合は増加しています。部局別にみても、概ね、協働した経験がある職員の割合が増加している傾向となっています。

## (2) 評価のまとめ

『第2次芦屋市市民参画協働推進計画』の基本目標「そだつ」「つながる」「すすむ」「ささえる」の成果に対する評価は、目標値に達していない項目がありますが、市民参画・協働について、取り組む市民や活動の場は広がっていることがうかがえます。

市民アンケートと、市職員アンケートを比較すると、市民では、市民活動や地域活動に取り組む人材が育っている認識は広がっていないものの、市職員では育っていると感じる職員が増加しています。また、市民参画・協働の機会（市民と市が協力し合って市内や地域の課題解決に取り組む機会）についても、同様に市民と市職員の認識のギャップがみられます。

このことから、市職員が関わる市民参画・協働の現場では、市民活動や地域活動に取り組む人材が育ってきており、市民参画・協働の機会も増えているものの、市民には活動に携わる機会が少ないことが推測されます。

また、市民参画・協働の機会が増える一方で、「できているが不十分」と回答している市職員が多く、市民への意識啓発、市民と行政が積極的に情報の交換や共有をするなど、さらなる市民参画・協働の活性化につながる機会の創出が必要となります。

## 2 芦屋市の市民参画・協働の現状・課題

### (1) 市民アンケートより

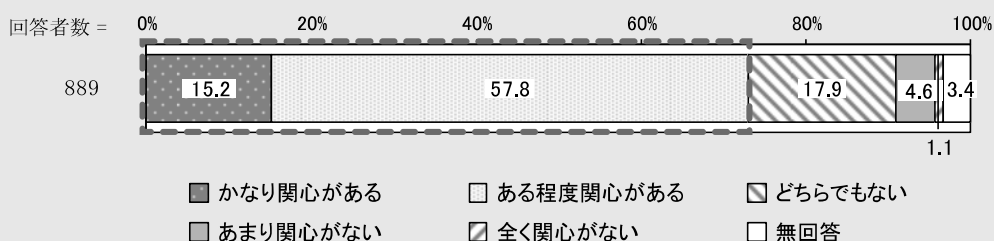
平成30年度（2018年度）に実施した市民アンケート調査（以下、市民アンケート調査）では、「1 住んでいる地域に対する意識」「2 地域の人とのつながり」「3 地域での活動との関わり」「4 市民参画協働施策に対する意識・行動」について意識調査を行いました。〔総数 2,000 人 回答数 889 人 回答率 44.45%〕

#### 見えてきた現状



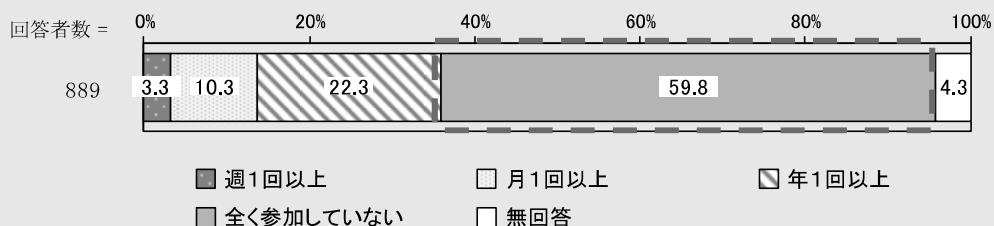
70%を超える市民が地域に対して関心があり、自分が暮らす地域に関心がある市民が多くいる。

#### 地域への関心度



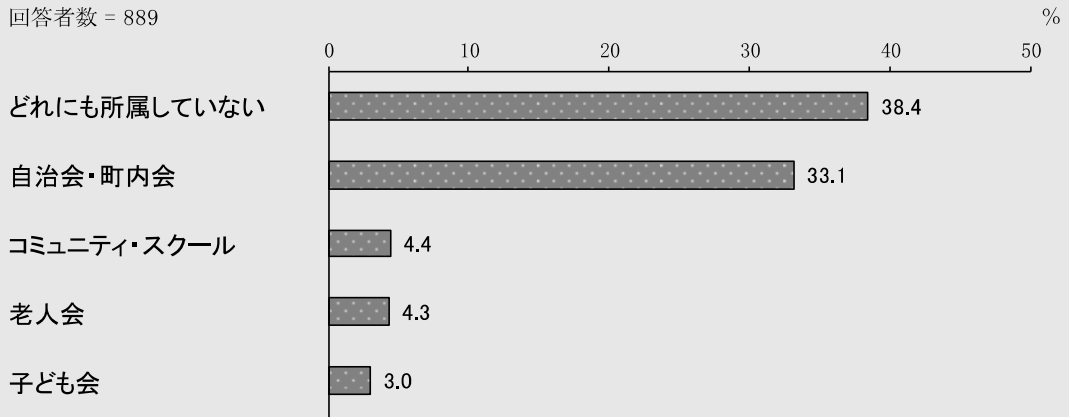
50%以上の市民が地域の活動に参加しておらず、活動団体への所属率も低い。

#### 地域の活動への参加状況



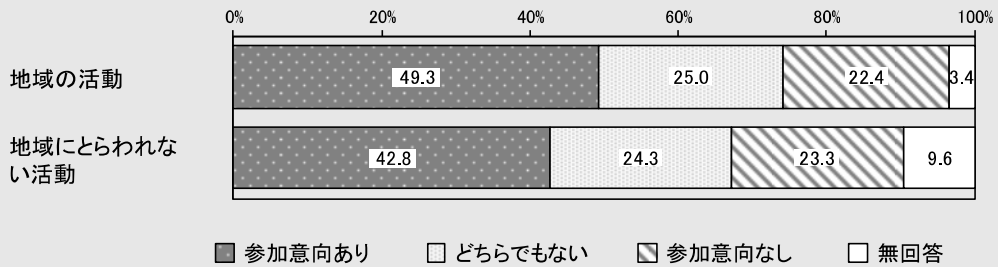
### 所属している地域の活動団体(上位5位)

回答者数 = 889



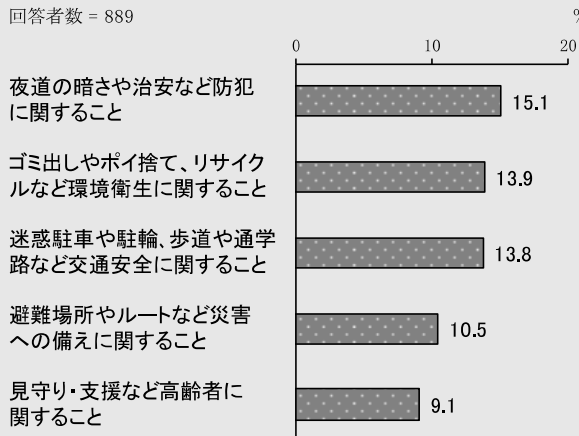
地域の活動への参加意向は、地域にとらわれない市民自身が興味のある活動に比べ、高くなっている。身近な生活の中では、「防犯」「環境」の関心が高く、参加したい興味がある活動では「スポーツ」「健康・福祉」の割合が高くなっている。

### 今後の参加意向



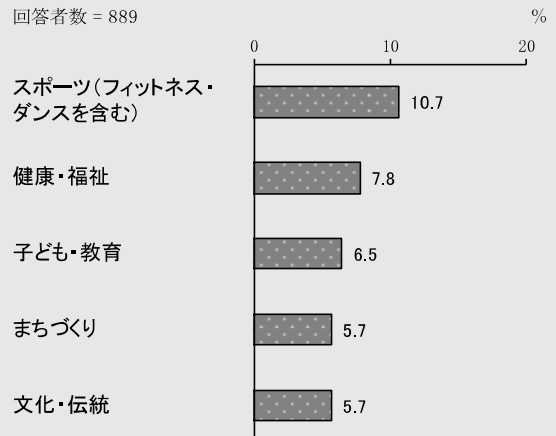
### 身近な生活の中で気になること(上位5位)

回答者数 = 889



### 参加したい興味がある活動(上位5位)

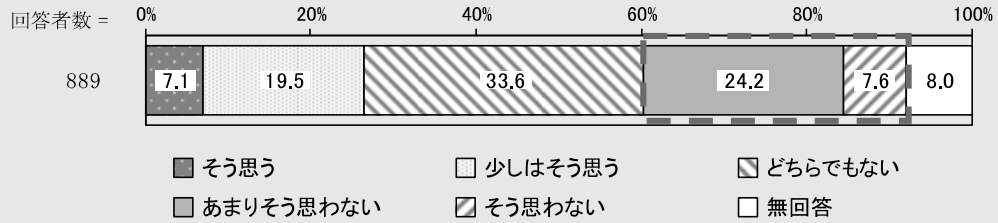
回答者数 = 889



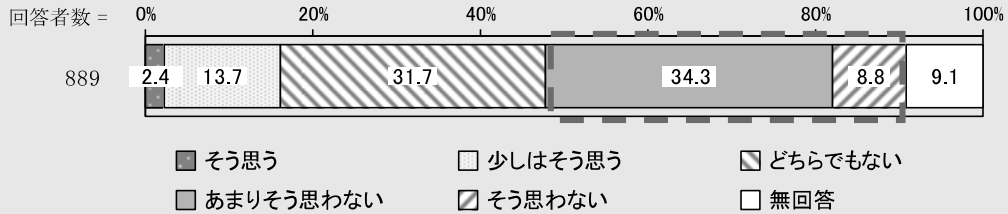


市民の約 30~40%の人が地域で活動を行う機会・場所や活動の参加者不足を感じている。

### 活動を行う機会・場所が十分にあると思うか

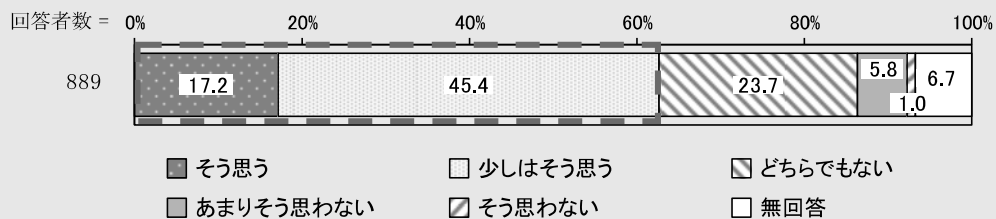


### 活動に参加する人が十分にいると思うか

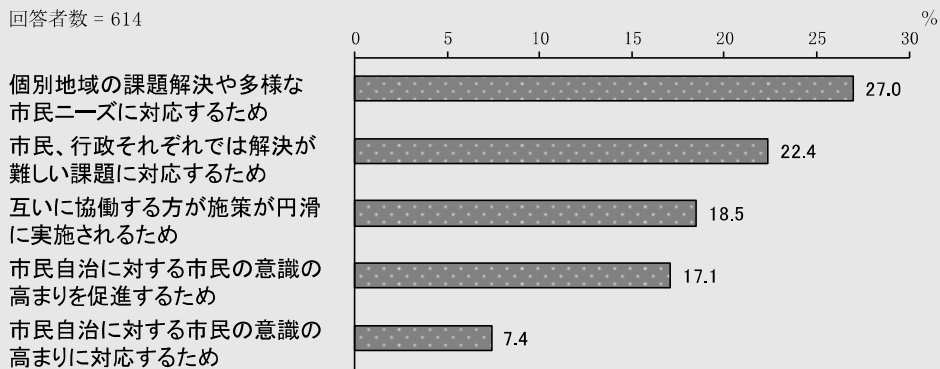


市民の市民参画・協働が必要であるという認識も高く、個別地域の課題解決や多様な市民ニーズへの対応、市民や行政単独では解決が難しい問題等の解決手段として、市民参画・協働が必要とされている。

### 市民参画協働を必要だと思うか



### 市民参画・協働を必要だと思う理由(上位5位)



## 今後の課題

- ・趣味の活動や、防犯、環境等市民の興味・関心がある活動から市民の参加を促し、将来的には、幅広い市民活動や地域活動への参画・協働へつなげていくことが必要。
- ・市民が興味ある活動に参加しやすい環境（多様な興味に応えることができ、強制力の無いゆるやかな活動環境と、その情報提供）を整備しつつ、人が人を呼ぶような、活動情報の発信の工夫が必要。
- ・行政から情報提供だけでなく、地域内の情報共有を図る活動、情報そのものに興味を持つきっかけづくりが必要。
- ・行政と市民とが協力して地域の課題解決に取り組む機会を増やすことが必要。

## (2) 市民活動団体の交流会（ワークショップ）及びアンケートより

平成 30 年度（2018 年度）に芦屋市立あしや市民活動センター登録団体の交流会を開催し、市民活動に関する課題等の意見交換を行いました。さらに、令和元年度（2019 年度）に、施設改修後のあしや市民活動センターを新たにご利用いただいている市民活動の実施団体に向けて、アンケート調査を実施しました。その中で出た課題の主な意見として以下の点があげられます。

## 見えてきた現状

- ・市民活動の動機には、社会への貢献、現状にはないサービスをつくりたい、誰かとつながることができる機会をつくりたいという思いがある。
- ・社会課題の解決に向けて、新たな価値の提供ができる市民活動を目指している。
- ・団体の高齢化に伴うメンバーの減少により、存続が難しい。
- ・団体やイベント等の情報発信機会が少ない。
- ・効果的な情報発信ができていない。
- ・イベント参加者が増えない。
- ・団体同士、お互いに何をしているか把握できていない。
- ・活動の場が少ない。
- ・情報発信や情報集約ができるとよい。

## 今後の課題

- ・活動団体同士の連携する機会や場を増やすことで、団体間の情報共有を促進し、個々の活動の活性化や団体間の協働した活動につなげることが必要。
- ・団体の活動や取組の成果を広くPRする機会を提供することが必要。
- ・活動の継続には、新たな人材の確保が不可欠であり、人材の発掘、育成が必要。
- ・市民活動の方向性に合わせたコーディネート機能の強化が必要。

### [ 市民活動団体の交流会（ワークショップ） ]



### (3) 総合計画ワークショップより

平成30年度（2018年度）に実施した総合計画策定に向けた市民ワークショップを行いました。その中で出た課題の主な意見として以下の点があげられます。

#### 見えてきた現状

- ・市民同士のつながりを広げる際や市民活動に参加する際に、「きっかけがわからない」、「どんなコミュニティがあるかわからない」、「何かやりたいが、何があるかわからない」など、活動の情報やきっかけがないことがあげられた。
- ・働いている人が、市民活動、地域活動に参加しにくいなど、多様なライフステージの人々が参加できていない。
- ・市民参画・協働が進むためには、市民と市職員が気軽に話し合える関係性・場をもつことが必要。



## 今後の課題

- ・多様なライフステージの人が、市民活動や地域活動に参加しやすい環境や効果的な情報提供などの活動への参加のきっかけづくりを行うことが必要。
- ・市民参画・協働をより効果的にまちづくりに活かしていくため、市職員の市民参画・協働に対する理解促進やコーディネートする技術の向上が必要。

## (4) 職員アンケート及びヒアリングより

本計画策定に向けて市職員に対しアンケート調査及び庁内各課ヒアリングを行いました。その中で出た課題の主な意見として以下の点があげられます。

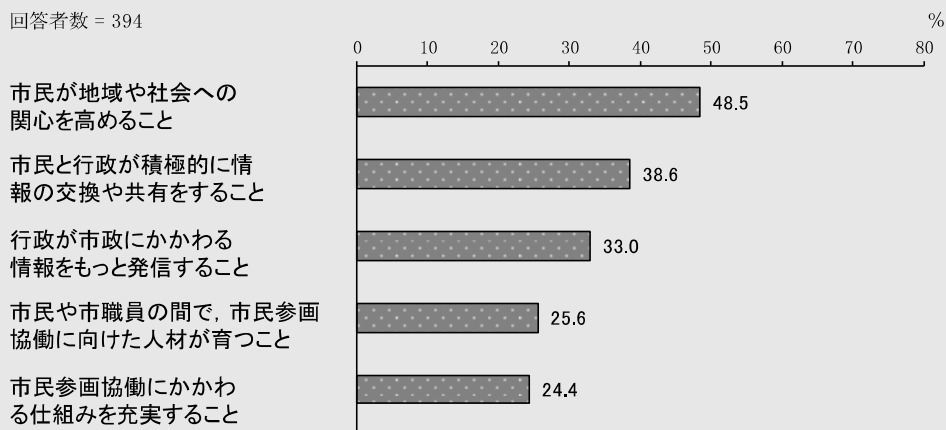
## 見えてきた現状



市民参画・協働のまちづくりを推進するために、市民が地域や社会への関心を高めることが必要と回答した職員の割合が最も高く4割を超えている。

### 市民参画・協働のまちづくりを推進するために必要な取組（上位5位）

回答者数 = 394





市民活動や地域活動が活発になるためには、団体への情報・相談支援、団体間の連携が必要だと感じている。

### 市民活動や地域活動が活発になるために必要な支援策（上位5位）

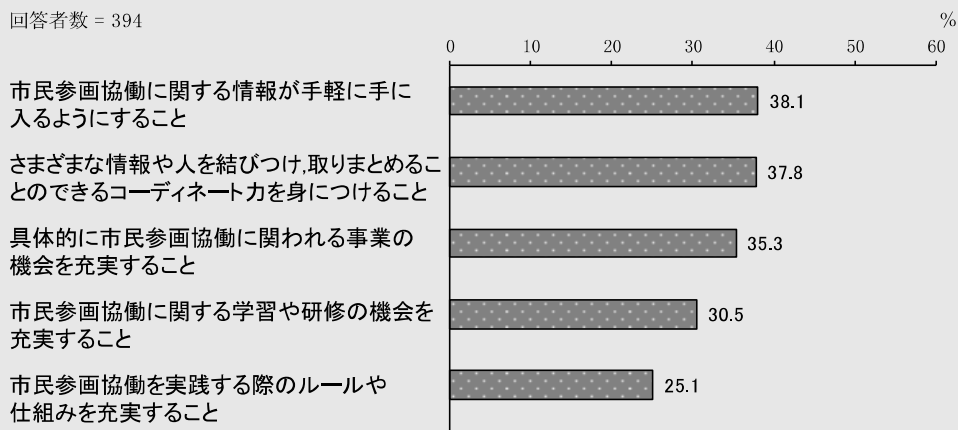
回答者数 = 394



市民や市職員が、市民参画・協働に対する理解を深め、人材が育つようにするためには、「市民参画・協働に関する情報が手軽に手に入るようにすること」「さまざまな情報や人を結びつけ、取りまとめることのできるコーディネート力を身につけること」があげられている。

### 市民や市職員が、市民参画・協働に対する理解を深め、人材が育つようにするために充実すべき施策（上位5位）

回答者数 = 394



- ・ 団体の高齢化に伴うメンバーの減少により、団体の存続が難しい。
- ・ 市と協働の関係にある団体等においても、担い手不足などの課題がある。

## 今後の課題

- ・市民参画・協働のまちづくりを推進するためには、市民が地域や社会への関心を高めることや、活動に参加するきっかけとしての情報や機会が必要。
- ・市民参画・協働の促進に向けては、情報と人をつなぐことができる人材の育成が必要。
- ・市民参画・協働をより効果的にまちづくりに活かしていくため、市職員の市民参画・協働に対する理解促進やコーディネートする技術の向上が必要。
- ・市民活動、地域活動の継続には、新たな人材の確保が不可欠であり、人材の発掘、育成が必要。

### 芦屋市立あしや市民活動センター（リードあしや）

（住所：芦屋市公光町5番8号 TEL:0797-26-6452）

〔ホームページ〕

あしや市民活動センター（リードあしや）は、市民参画及び協働の推進を図るため、地域の課題解決又は発展を目的として市内で活動する個人及び市民活動団体の協働の拠点として設置されたものです。平成31年4月にリニューアルオープンし、新たな交流スペースをご利用いただけるようになりました。

